

2016年度  
世 界 史  
(問 題)

〈H28100018〉

## 注 意 事 項

1. 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
2. 問題は2～9ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. マーク解答用紙記入上の注意
  - (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、試験開始後、解答用紙の氏名欄に氏名を正確に丁寧に記入すること。
  - (2) マーク欄には、はっきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと（砂消しゴムは使用しないこと）。

マークする時	● 良い	◎ 悪い	○ 悪い
マークを消す時	○ 良い	◎ 悪い	○ 悪い

5. 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
6. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
7. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
8. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

I 次の文章を読み、問1～10について、各設問の指示に従って選択肢の中から解答を選び、その記号をマーク解答用紙にマークせよ。

今日に至るまで、ヨーロッパ・アジア・アフリカに囲まれた地中海とその沿岸の歴史は、移民の歴史でもあった。古代東地中海では、まず前2000年頃、青銅器文化を持ち、<sup>(A)</sup>オリエント文明の影響を受けた人々により、クレタ文明が形成された。同じ頃、<sup>(B)</sup>インド＝ヨーロッパ語系民族がバルカン半島や小アジアに侵入し、その一部が<sup>(C)</sup>ミケーネ文明を形成した。しかし、前12世紀頃から新たにバルカン半島北部からギリシア人の一派であるドーリア人が南下してくると、ミケーネ文明は滅亡した。

<sup>(D)</sup>地中海沿岸にピブロス、シドン、ティルスなどの都市国家を築いていたセム語系民族のフェニキア人は、前1100年頃から西地中海の各地に植民活動を行った。ミケーネ文明崩壊後小アジア西岸とペロポネソス半島に移住したギリシア人たちは、前8世紀までに、海岸に比較的近い平野の丘を砦としてポリスと呼ばれる都市国家を形成した。また、前8世紀半ばからは、大規模な植民活動に乗り出し、地中海と黒海の沿岸各地に植民市を建設した。ポリスと植民市を拠点として、<sup>(E)</sup>ギリシア人は合理的で人間中心的な文化を生み出した。フェニキア人とギリシア人の植民活動は主として地中海の東から西へ展開したが、前4世紀後半における<sup>(F)</sup>アレクサンドロス大王の東方遠征は、東地中海から東方へ向かう人口移動を引き起こした。この移動は、地中海文明をオリエント文明に結びつけ、<sup>(G)</sup>ヘレニズム文化を生み出し、その文化的影響は<sup>(H)</sup>インドや日本にまで及んだ。

<sup>(H)</sup>バルカン半島にドーリア人が南下した前12世紀頃、インド＝ヨーロッパ語系民族のイタリア人がイタリア半島に南下し、その一派ラテン人がローマに集落を築いた。前7世紀末からローマはエトルリア人により支配されたが、前509年にはエトルリア人の王を追い出し、<sup>(I)</sup>共和政となった。ローマは、前3世紀前半にイタリア半島全域を支配し、前146年には西地中海に制海権を確立した。また、東地中海にも進出してギリシアと小アジアを勢力下におさめ、<sup>(J)</sup>前1世紀の前半にはシリアも領有し、前31年にはエジプトを征服して地中海世界を統一した。

問1 下線部(A)について、次の記述のうち適切でないものを1つ選べ。

- a. メソポタミア地方のウル・ウルク・ラガシュに都市国家を建設したシュメール人は、楔形文字を使用し、多神教の神々を祭る神殿を建てた。
- b. エジプト人は靈魂の不滅と死後の世界を信じて、遺体を防腐加工してミイラをつくり、「死者の書」をつくって埋葬した。
- c. カッシート人は、鉄製の武器や騎馬兵をもって全オリエントを統一し、行政区を設けてサトラップに統治させた。
- d. アナトリア西部に建国されたリディアは、東西交通の要衝として中継貿易で栄え、最古の金属貨幣を使用した。

問2 下線部(B)について、次のうちインド＝ヨーロッパ語系民族によって建国された国はどれか。

- a. 新バビロニア王国    b. メディア王国    c. クシュ王国    d. アッシリア王国

問3 下線部(C)について、次の記述のうち適切でないものを1つ選べ。

- a. ミケーネの遺跡からは、黄金のマスクなどの金属製品が出土している。
- b. ミケーネに築かれた巨大な城塞は、軍事的関心の高さと王の権力の大きさを示している。
- c. ミケーネの遺跡は、イギリス人の考古学者エヴァンズによって発掘された。
- d. ミケーネに加えて、ティリンス、ピュロスなどに王国がつくられた。

問4 下線部(D)について、地中海沿岸で活動したセム語系民族に関する次の記述のうち最も適切なものを1つ選べ。

- a. イスラエル王国は、ソロモン王のもとで首都イェルサレムの建設によって支配が強化され、次のダヴィデ王のもとで栄華を誇った。
- b. アラム語には、ヘブライ文字から派生した表意文字が用いられ、アラム人の活動にともなってオリエントの共通語となった。
- c. 木材やガラス、染料の取引で発展したフェニキア人の交易圏は、地中海を超えて大西洋にまで及んでいた。
- d. 内陸交易に活躍したカナーン人は、ダマスカスを中心とする広大な交易圏を築き、ドラクマ銀貨を流通させた。

問5 下線部(E)について、次のギリシア文学の作者名と作品名の組み合わせのうち適切なものを1つ選べ。

- a. アリストファネス —— 『女の議会』
- b. アイスキュロス —— 『オイディプス王』
- c. エウリピデス —— 『アガメムノン』
- d. ソフォクレス —— 『メデシア』

問6 下線部(F)について、次のうちアレクサンドロス大王の事績ではないものを1つ選べ。

- a. イッソスの戦い      b. アレクサンドリアの建設      c. アルベラの戦い      d. コリンドス同盟の結成

問7 下線部(G)について、次の記述のうち最も適切なものを1つ選べ。

- a. フェイディアスは、ヘレニズム彫刻の代表的作品ラオコーンをつくった。
- b. アリストアルコスが太陽中心説を主張し、地球と太陽の距離を算出した。
- c. ゼノンが精神的な快楽主義を主張し、ストア派を創始した。
- d. 自然科学が大きく発達し、アルキメデスは平面幾何学を集大成した。

問8 下線部(H)について、インドに関する①～④の出来事を年代順に並べたものはどれか。

- ① 竜樹が『中論』を著す
  - ② アショーカ王によるスリランカへの仏教の布教
  - ③ バクティ運動がおこる
  - ④ 『リグ＝ヴェーダ』の編纂
- a. ④—③—①—②      b. ②—④—①—③      c. ①—③—④—②  
d. ④—②—①—③      e. ②—③—①—④      f. ③—①—②—④

問9 下線部(I)について、共和政時代のローマに関する次の記述のうち適切なものを2つ選べ。

- a. ホルテンシウス法により、平民会の議決が元老院の承認を得なくとも国法として認められるようになった。
- b. カエサルにより大規模なキリスト教徒の迫害が行われ、信者たちは地下墓地カタコンベでひそかに礼拝を行った。
- c. 歴史家ポリビオスは『歴史』を著し、政治家の参照すべき実用の観点から、ローマの世界支配実現の過程を説明した。
- d. 奴隷による農場経営の効率が悪くなり、解放奴隷や没落した農民をコロヌスとして農園で使役するラティフンディアという制度が発達した。

問10 下線部(J)について、前1世紀にアジアで起こった出来事に関する次の記述のうち最も適切なものを1つ選べ。

- a. 匈奴の冒頓単于が、中央アジアのオアシス地帯を勢力下においた。
- b. 中国東北地方南部に高句麗が建国された。
- c. 中国では、劉秀が漢を復興し、光武帝として即位した。
- d. 邪馬台国の女王卑弥呼が「親魏倭王」の称号を与えられた。

## II

次の文章を読み、問1～10について、各設問の指示に従って選択肢の中から解答を選び、その記号をマーク解答用紙にマークせよ。

(A) ルネサンスとよばれる文化運動の展開、大航海時代の幕開け、さまざまな宗教改革運動を経つつ、15世紀後半以降、ヨーロッパ諸国は、権力を王に集中させる一元的支配を強め、絶対王政を確立していった。

(B) 百年戦争とバラ戦争により封建貴族の多くが没落したイギリスでは、<sup>(C)</sup>ヘンリ7世が絶対王政の傾向を強め、<sup>(D)</sup>次のヘンリ8世は、一層の王権強化に努めた。その後一時混乱期もあったが、<sup>(E)</sup>エリザベス1世の治世下で絶対王政は頂点を迎えた。

フランスでも百年戦争を機に封建貴族の没落が進み、官僚制・常備軍が整備され、絶対王政への道が開かれた。その後フランスは神聖ローマ帝国とイタリアの覇権をめぐる長期間の戦争を繰り広げ、ローマ教皇やスペインなどをも巻き込んだ複雑な外交取引と戦闘が展開された。<sup>(F)</sup>このイタリア戦争は主権国家体制成立の契機になったとも言われるが、同時期のフランスや神聖ローマ帝国では、宗教改革運動などにより国内情勢がきわめて不安定でもあった。<sup>(G)</sup>16～17世紀にかけてのフランスでは、ルイ14世の治世下において絶対王政が頂点に達した。他方神聖ローマ帝国では、<sup>(H)</sup>領邦国家や教会領や帝国都市が分立し、<sup>(I)</sup>宗教をめぐる皇帝および旧教派と新教派が激しく対立し、その後起こった三十年戦争は諸外国をも巻き込むことになった。戦争終結のためのウェストファリア条約の締結後、帝国は<sup>(J)</sup>多数の領邦国家に分かれた。

問1 下線部(A)について、ルネサンス文化に関する次の記述のうち最も適切なものを1つ選べ。

- a. ペトラルカは、ボッカチオとともにイタリア・ルネサンスを代表する人文主義者であり、代表作『新生』ではベアトリーチェへの愛がうたわれている。
- b. 建築におけるルネサンス様式はブルネレスキ、アルベルティらにより確立され、アルベルティはサン＝ピエトロ大聖堂新築に際して主任建築家を務めた。
- c. フランス・ルネサンスを代表する人文主義者ラブレールは、滑稽な風刺小説『ガルガンチュアとパンタグリュエルの物語』を著した。
- d. ケプラーによる「惑星の3法則」の発見は、コペルニクスが『天球回転論』を構想するきっかけとなった。

問2 下線部(B)について、エドワード3世の長子エドワードが1356年フランス軍に勝利した戦いはどれか。

- a. アザンクールの戦い      b. ポワティエの戦い      c. スダンの戦い      d. クレシーの戦い

問3 下線部(C)について、次の記述のうち最も適切なものを1つ選べ。

- a. バラ戦争でヨーク家最後の王を破り、ランカスター朝を復活させた。
- b. 封建家臣団を解体し、官僚としてジェントリおよびヨーマンを重用した。
- c. 大西洋を横断してニューファンドランドに到達したイタリア人カボットを後援した。
- d. 商工業の奨励、堅実な財政政策に加え、スコットランドを併合して国力増大に努めた。

問4 下線部(D)について、ヘンリ8世の治世に関する次の記述のうち適切なものを2つ選べ。

- a. 国王を国教会の唯一最高の首長とする国王至上法を1534年に発布した。
- b. ケンブリッジ大学教授トマス＝克蘭マーの作成した英文共通祈禱書を国教会信徒に義務づけた。
- c. 修道院の解散による所領の没収などで王室財政を強化するとともに、ウェールズを併合した。
- d. 開放耕地制の徹底によって羊毛生産や毛織物工業を振興し、毛織物貿易を著しく繁栄させた。

問5 下線部(E)について、エリザベス1世の治世下で起こった出来事に関する次の記述のうち適切でないものを1つ選べ。

- a. イギリス海軍による1571年のスペインの無敵艦隊撃破は、イギリスの海外進出への道を切り開いた。
- b. イギリス・ルネサンス演劇を代表するシェークスピアが『ヴェニスの商人』や『ハムレット』を書いた。
- c. 1600年女王の特許状により成立した東インド会社には、喜望峯とマゼラン海峡間の貿易独占権のほか、多様な権限が与えられた。
- d. 貧民を救済するために、救貧税を財源とする救貧法が1601年制定された。

問6 下線部(F)について、次の記述のうち最も適切なものを1つ選べ。

- a. フランスのシャルル7世は、ナポリの王位継承権を主張して、1494年イタリアに遠征し、ナポリに入城した。
- b. スペイン王カルロス5世は、1519年の神聖ローマ皇帝選挙で皇位につくと、フランス軍との戦いを有利に進めた。
- c. 教皇アレクサンデル6世がフランス側につくと、1527年神聖ローマ帝国軍による「ローマの劫略」が行われた。
- d. 1559年に締結されたカトー＝カンブレジ条約で、スペイン王フェリペ2世はフランス王アンリ2世にイタリア支配を断念させた。

問7 下線部(G)について、この時期のフランスで起きた次の出来事を年代順に並べたものはどれか。

- ① サン＝バルテルミの虐殺
- ② ナントの王令(勅令)の発布
- ③ フロンドの乱
- ④ 三部会招集の停止

- a. ③—②—①—④      b. ④—①—②—③      c. ①—②—④—③
- d. ②—④—①—③      e. ①—③—④—②      f. ②—①—③—④

問8 下線部(H)について、旧教(ローマ教会)を支持する皇帝側と新教派に関する次の記述のうち適切なものを2つ選べ。

- a. 1522年、ジッキンゲンは、ルターの改革を支持する帝国騎士たちを指導して騎士戦争を起こした。
- b. 1524年に起こったドイツ農民戦争は、過激化したためにルターの批判を浴び、内部分裂と諸侯の武力により鎮圧された。
- c. 新教派の諸侯や帝国都市は、1546年同盟を結び、信教の自由を求めて皇帝側に宣戦を布告し、シュマルカルデン戦争を起こした。
- d. 1555年アウクスブルクの宗教和議で、新教派が公認され、ルター派、カルヴァン派を含む個人の信仰選択の自由が認められるに至った。

問9 下線部(I)について、次の記述のうち適切なものを2つ選べ。

- a. ボヘミア(ベーメン)王フェルディナントの旧教強制に反対したヴァレンシュタインは、1618年に新教派貴族を率いて反乱を起こした。
- b. 神聖ローマ皇帝フェルディナント2世は、1620年スペインなどの援助のもと、ボヘミアの反乱軍を鎮圧した。
- c. カルヴァン派のデンマークは、新教派と結び、イギリスおよびオランダの援助を得て、1625年帝国内に侵入したが、皇帝軍に阻まれた。
- d. ルター派のスウェーデンは、旧教国フランスや新教派諸侯の支援を受け、1632年リュッツェンの戦いで皇帝軍に勝利した。

問10 下線部（J）について、すでに併合していたプロイセン公国に加え、ウェストファリア条約でさらに領土を拡大したドイツの選帝侯国はどれか。

- a. バイエルン    b. ザクセン    c. ブランデンブルク    d. ハノーヴァー

Ⅲ 次の文章を読み、問1～10について、各設問の指示に従って選択肢の中から解答を選び、その記号をマーク解答用紙にマークせよ。

(A) 北米では、17世紀に入りヨーロッパ人の植民地開発が本格化した。17世紀後半から18世紀半ばにかけて、イギリスとフランスは、ヨーロッパで戦争が起こるたびに、北米植民地でも対立し戦争を繰り返した。結局フランスの勢力はほぼ駆逐され、インドにおける支配権確立などと合わせて、イギリスの植民地帝国が完成することになった。

イギリス領の13植民地は、それぞれ植民地議会を設け、自治を行っていた。しかし、イギリス本国が財政的理由から植民地に対する重商主義政策を強化すると、植民地側は反発し、1775年の武力衝突をきっかけとしてアメリカ独立戦争が始まった。当初植民地軍は劣勢であったが、戦局が好転するとヨーロッパ諸国が植民地側を支援するようになり、植民地側の勝利は決定的となった。83年のパリ条約でイギリスはアメリカの独立を承認し、87年にはアメリカ合衆国憲法が制定された。

独立達成から19世紀前半のアメリカは、黒人奴隷や先住民の問題などを抱えたままであり、また、アメリカの領土は太平洋岸にまで拡大し、西漸運動が進んだ。しかし、北部の商工業地帯と南部の奴隷制プランテーションによる綿花生産地帯の経済的・政治的対立は次第に深刻化した。

1860年共和党のリンカンが大統領に当選すると、翌年、合衆国を離脱してアメリカ連合国を結成した南部諸州と合衆国の間で南北戦争が勃発した。当初南部が優勢であったが、リンカン大統領が奴隷解放宣言を発表し、結局南北戦争は合衆国の勝利で終結して合衆国の統一は維持された。黒人は奴隷制から解放されたが、黒人への法的、社会的差別はその後も存続した。

19世紀後半は、北部を中心とする工業開発、西部開拓による農業の躍進、新技術の発明・導入などにより、アメリカ経済が大きく成長した時代であった。とくに、工業の発展は目覚しかったが、この発展を支えたのは大量の移民であった。

問1 下線部（A）について、ヨーロッパ人による北米での植民地開発に関する記述のうち、適切でないものを1つ選べ。

- a. ヴァージニアは、1607年に建設されたジェームズタウンを起源とし、北米におけるイギリスの最初の植民地となった。
- b. 大西洋地域での交易独占権を与えられたオランダ西インド会社が、後にニューヨークとなるニューアムステルダムを建設した。
- c. フランスは、アンリ4世の時代にケベックを拠点とする地域、およびミシシッピ川流域のルイジアナを領有した。
- d. イギリスのジェームズ1世による宗教弾圧を逃れたピューリタンの一団が、後にニューイングランド植民地へと発展するプリマス植民地を建設した。

問2 下線部（B）について、ヨーロッパにおける戦争と、それと並行して戦われた北米におけるイギリスとフランスの間の戦争とが、最も適切に組み合わされているものはどれか。

- a. オーストリア継承戦争 —— ウィリアム王戦争
- b. 七年戦争 —— ジョージ王戦争
- c. スペイン継承戦争 —— アン女王戦争
- d. ファルツ戦争 —— フレンチ＝インディアン戦争

問3 下線部(C)について、アメリカ独立戦争中の出来事①から④に関して、それらが起きた順に最も適切に並んでいるものはどれか。

- ① イギリスの対植民地海上封鎖に対抗して、ロシア、プロイセンなどが武装中立同盟を結成した。
- ② 13植民地が大陸会議でアメリカ連合規約を採択した。
- ③ ヴァージニアのヨークタウンで、アメリカ・フランス連合軍がイギリス軍に大勝した。
- ④ 植民地独立の正当性を訴えるトマス＝ペインの『コモン＝センス』が出版された。

a. ②—①—④—③      b. ②—④—③—①      c. ①—④—③—②      d. ④—②—①—③

問4 下線部(D)について、アメリカ合衆国憲法の各州での批准をめぐり、州政府の権限維持を主張し憲法草案に反対した反連邦派に対して、中央政府の権限強化を唱え憲法草案を支持した連邦派の中心人物はだれか。

a. ジェファソン      b. ジャクソン      c. ハミルトン      d. ワシントン

問5 下線部(E)について、黒人奴隷貿易や黒人奴隷制度に関する記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. イギリスでは、1807年に世界で初めて奴隷貿易を禁止する法律が、また1833年に奴隷制度を廃止する法律が制定された。
- b. アフリカのギニア地方では15世紀から19世紀の間に、ベニン王国、ガーナ王国、ダホメ王国などの黒人王国がアメリカ大陸向けの黒人奴隷貿易で繁栄した。
- c. イギリスは、1713年のパリ条約で新大陸への奴隷貿易特権(アシエント)をスペインから獲得して以降、大西洋の三角貿易で巨利を得るようになった。
- d. 北米では1619年にニューイングランド植民地に黒人奴隷がもたらされたのが黒人奴隷貿易の最初とされている。

問6 下線部(F)について、アメリカが他国との戦争の結果獲得した領土はどこか。

a. フロリダ      b. アラスカ      c. オレゴン      d. カリフォルニア

問7 下線部(G)について、南部における綿花の大量生産を可能とし、アメリカの産業革命を引き起こす要因となったとされる機械が1793年に発明された。この機械を発明した人物はだれか。

a. ハーグリーヴス      b. ホイットニー      c. クロンプトン      d. アークライト

問8 下線部(H)について、南北戦争後の黒人を取りまく社会状況に関する記述のうち、適切でないものを1つ選べ。

- a. 南部では多くの黒人がシェアクロッパーとなり、貧しい生活を余儀なくされた。
- b. テネシー州で結成されたクー＝クラックス＝クランによる黒人への迫害活動が、南部各地に広がった。
- c. 奴隷から解放された黒人がアフリカに移住し、リベリア共和国を建国した。
- d. 1865年の合衆国憲法修正第13条によってアメリカの奴隷制は正式に廃止された。

問9 下線部(I)について、19世紀末までのアメリカ経済に関する記述のうち、適切でないものを1つ選べ。

- a. 大陸横断鉄道の開通により国内市場の結びつきが強まった。
- b. アメリカがイギリスを抜いて世界最大の工業生産国となった。
- c. 労働争議が頻発し、非熟練労働者の組合である産業別組織会議(CLO)が結成された。
- d. 独占的企業が台頭したが、シャーマン反トラスト法の制定など反独占の動きも生じた。



問10 下線部 (J) について、アメリカへの移民に関する記述のうち、最も適切なものを1つ選べ。

- a. 1880年代から急増した北欧系・東欧系移民は「新移民」と呼ばれた。
- b. 1902年に制定された中国人移民禁止法は、アメリカ史上で初めての移民制限法であった。
- c. 1830年代半ばからのアイルランドのジャガイモ飢饉の際に大量のアイルランド人がアメリカに移住した。
- d. 1924年に制定された移民法によって日本人の移民は事実上禁止されることになった。

IV

次の文章を読み、問1～10について、各設問の指示に従って選択肢の中から解答を選び、その記号をマーク解答用紙にマークせよ。

第一次世界大戦後の新たな国際秩序であるヴェルサイユ体制で、民族自決の原則が認められた。この原則が適用された地域では、いくつかの国が独立を果たした。(A) アジア・アフリカ地域は植民地として列強の支配下に置かれたままであったが、各地で自治や独立を求める民族運動が展開された。(B)

西アジアで近代国家の建設をめざしたのはトルコであった。オスマン帝国は第一次世界大戦で同盟国側に参戦して敗北したことによりアラブ地域を喪失し、列強による国土分割の危機に直面していた。このような状況で (C) ムスタファ＝ケマル (のちのケマル＝アタテュルク) は祖国解放運動を指導し、1923年にトルコ共和国を成立させた。

インドは第一次世界大戦中にイギリスから自治権を約束されていたが、大戦後に実現されたのは形式的な自治に過ぎなかった。民衆は激しく反発し、(D) ガンディーを指導者とする抵抗運動が展開された。運動方針の違いや宗教対立の深刻化によって運動は一時停滞したが、(E) 1927年になると運動は再び活発化し、ガンディーも1930年から運動を再開した。イギリスは妥協の道を探したが、民族運動が止むことはなかった。

第一次世界大戦後の (F) 東南アジア各地域では、政党の指導の下に民族運動が展開した。しかし、太平洋戦争が勃発すると、これら地域の多くは日本の支配下に入り、独立を果たすのは第二次世界大戦後となった。

東アジアでは、第一次世界大戦前に (G) 辛亥革命により中華民国が建国されたことで清が滅亡していた。しかし、中華民国の政情は不安定で、政治に失望した知識人は (H) 文学革命と呼ばれる文化運動を起こした。戦勝国として参加したパリ講和会議で中国の要求が列強によって退けられると、民衆による愛国運動が起こった。こうした状況で、大衆政党として組織化された中国国民党は、1921年に結成された中国共産党と協力関係を築きながら (I) 国民革命を展開した。1927年に両党の協力関係が崩れると、国民党は単独で統一政権を樹立しようとした。一方で、(J) 共産党は農村に拠点を移して勢力を拡大していった。

問1 下線部 (A) について、次の記述のうち最も適切なものを1つ選べ。

- a. フィンランドは1918年10月に共和国として独立し、マサリクが初代大統領となった。
- b. ポーランドは1918年11月に独立を宣言し、ピウスツキを国家元首とする共和国となった。
- c. セルビア人、クロアチア人、スロヴェニア人は、1918年12月にユーゴスラヴィア共和国を建国した。
- d. ブルガリアは1920年6月に結ばれたトリアノン条約によって独立が認められた。

問2 下線部 (B) について、第二次世界大戦後にガーナを独立に導いた指導者は誰か。

- a. デュボイス    b. マンデラ    c. ルムンバ    d. エンクルマ (ンクルマ)

問3 下線部 (C) について、ムスタファ＝ケマルが大統領就任後に行った政策に関する次の記述のうち適切でないものを1つ選べ。

- a. 男性のトルコ帽着用を禁止した。
- b. ヒジューラ暦を廃止した。
- c. スルタン制を廃止した。
- d. トルコ語のアラビア表記を廃止した。



問4 下線部(D)について、ガンディーが展開した非暴力・不服従運動を表す語はどれか。

- a. サティヤーグラハ    b. プールナ=スワラージ    c. ハルタル    d. マハートマ

問5 下線部(E)について、1927年に抵抗運動を活発化させることになった原因に関する記述として最も適切なものを1つ選べ。

- a. アムリットサル(アムリトサル)で開かれた民衆の抗議集会にイギリス軍が発砲して多数の死傷者が出た。  
b. ロンドンで開催された英印円卓会議へのムスリムの出席が拒否された。  
c. 憲法改革調査委員会(サイモン委員会)の委員にインド人が含まれていなかった。  
d. 財政・防衛・外交権限をイギリスが掌握する新インド統治法が制定された。

問6 下線部(F)について、次の記述のうち最も適切なものを1つ選べ。

- a. ベトナムではホーチミンがインドシナ国民党を率いて民族運動を指導した。  
b. フィリピンではホセ=リサルがカティブ=ナン党を率いて独立をめざした。  
c. インドネシアではスカルノによってインドネシア共産党が結成された。  
d. ビルマではアウン=サンがタキン党を率いて独立運動を指導した。

問7 下線部(G)について、清朝滅亡に至る過程に関する記述として最も適切なものを1つ選べ。

- a. 孫文は1905年に興中会を組織するとともに三民主義を提唱した。  
b. 中国同盟会の指導者である宋教仁らは臨時約法を作成した。  
c. 袁世凱は第三革命と呼ばれる地方蜂起を鎮圧して大統領に就任した。  
d. 立憲君主制をめざして改革を行った光緒帝は清朝最後の皇帝となった。

問8 下線部(H)について、雑誌『新青年』に「文学改良<sup>すうぎ</sup>芻議」を発表して白話文学を提唱したのは誰か。

- a. 胡適    b. 魯迅    c. 李大釗    d. 陳独秀

問9 下線部(I)について、次の記述のうち最も適切なものを1つ選べ。

- a. 1925年に起こった五・三〇事件をきっかけとして、国共合作が始まった。  
b. 1926年から中国国民党によって開始された北伐は、上海クーデタによって中断された。  
c. 蒋介石は国民党左派をまとめ、1927年4月、南京に国民政府を樹立した。  
d. 中国国民党が組織した国民革命軍は1928年4月に張学良を破り、北京を占領した。

問10 下線部(J)について、1930年代の共産党の活動に関する記述として最も適切なものを1つ選べ。

- a. 1931年に井岡山に中華ソヴィエト共和国臨時政府を樹立した。  
b. 1934年に長征を終え、延安を拠点とした。  
c. 1935年に八・一宣言を出して抗日救国を呼びかけた。  
d. 1936年に蒋介石を監禁する西安事件を起こした。

[以下余白]